

日本救急医療財団の活動報告

平 賢二 事務局長

2016年12月中旬から2017年2月上旬までの財団の活動について報告します。

研修研究部門に関する報告

穂苅 幸夫 研修研究部

1. 保健師等救急蘇生法指導者講習会について

平成29年1月19日(木)から1月20日(金)までの2日間、国立病院機構研修センターにおいて、保健師等救急蘇生法指導者講習会を実施しました。

全国から20名の受講者が参加され、心肺停止事象が公衆衛生に及ぼす影響、新しい蘇生ガイドライン2015と「救命の連鎖」、乳児に対する心肺蘇生法指導ツールと実習、母子保健と救急蘇生法指導(心停止予防・事故防止を含む。)のワークショップ、学校保健と救急蘇生法指導、地域包括ケア歯科システムと救急医療、在宅医療介護サービスを受けている市民や施設入所者の急性疾患や急変に対する保健師等の役割野ワークショップ、災害医療における保健所の役割、災害コーディネーターとの連携における保健師等の役割のワークショップであり、ワークショップにおいては、活発な意見交換と受講生自身による体験により受講生の相互間での連帯感が深められ大変有意義な講習会となりました。

2. 病院前医療体制における指導医等研修(初級者)について

平成29年1月19日(木)から1月20日(金)までの2日間、国立病院機構研修センターにおいて、病院前医療体制における指導医等研修(初級者)を実施しました。

受講対象は、3年以上の救急臨床歴があり、これからMCを始める医師、現在も救急隊員への指導・助言を行っており、オンラインでも指示をしている医師、救急救命士・救急隊員の病院実習に関して院内コーディネーター役となる医師、二次救急医療機関において救急医療を担当している医師であり、今回は64名の受講者が参加されました。

研修の内容は、我が国の救急医療体制と病院前医療体制の概要、消防機関における救急業務及び救急救命士制度に対する理解、MCの基本と運用の理解、MC関連法規に対する理解、救急救命士が実施する救命処置、オンラインMCのワークショップ、局地災害のMCに関する問題の理解、事後検証、症例検討会の方法論のワークショップ、救急救命士等に対する教育のワークショップ、MC及び指導医の今後の展開のワークショップであり、ワークショップでは活発な意見交換がなされ、大変有意義な研修会となりました。

3. 救急救命士業務実地修練について

平成 29 年 2 月 6 日（月）から 2 月 10 日（金）までの 5 日間、国立病院機構研修センターにおいて、全国から推薦された 48 名の救急救命士の参加による救急救命士実地修練を実施しました。

研修内容は、救急救命士制度の将来像の講義・ワークショップ、心肺停止前の特定行為の講義・ワークショップ、症状・徴候 観察のコツの講義・ワークショップ、緊急度判定の理論と実践の講義・ワークショップ、現場活動のシミュレーションと教育技法の取得、局地災害における消防活動、局地災害時の MC に関する問題の理解の講義・ワークショップ、通信指令業務、通信指令業務の事後検証の講義・ワークショップ、MC にかかる諸業務の管理・運営の講義・ワークショップ、安全な救急業務管理の講義・ワークショップです。

9 日(木)は医師との合同のワークショップとなり、活発な意見交換がなされ、受講生からは大変有意義な研修会となりました。

4. 病院前医療体制における指導医等研修(上級者)について

平成 29 年 2 月 8 日（水）から 2 月 10 日（金）までの 3 日間、国立病院機構研修センターにおいて、全国から推薦された 46 名の医師の参加による病院前医療体制における指導医等研修（上級者）を実施しました。

受講対象は、5 年以上の救急臨床歴があり、救急科専門医やそれと同等の資格を有し、2 年以上の地域メディカルコントロール担当医として経験を積んだ医師で、地域において指導歴がある医師です。

研修内容は、我が国の救急医療体制と病院前医療体制、消防法の改正、輸送と受入れ実施基準と緊急度判定、救急医療体制にかかる調整の講義・ワークショップ、局地災害における消防活動、局地災害時の MC に関する問題の理解の講義・ワークショップ、通信指令業務、通信指令業務の事後検証の講義・ワークショップ、救急救命士等に対する教育の講義ワークショップ、再教育システムの構築の講義・ワークショップ、MC 及び指導医の今後の展開の講義・ワークショップです。

9 日(木)は救急救命士との合同のワークショップとなり、活発な意見交換がなされ、受講生からは大変有意義な研修会となりました。